

食と農をおこす 佐久地方ネットワークの活動

依田 発夫（長野県・食と農をおこす佐久地方ネットワーク）

1996年夏の病原性大腸菌O-157による集団食中毒の発生をきっかけに、改めて輸入食品の危険性や安全な食糧供給の重要性を考えようと、1996年11月、長野県佐久地方（2市2郡、人口約20万人）の農村女性を中心となり、「佐久地方／食と農と健康を考える集い」が開かれた。

ここには、安全な農産物づくりに励む生産者グループ、定・無農薬の新鮮な農産物を直接消費者に届けている産直グループ、朝市・夕市などで消費者とのふれあいを大切にし、地域の人々に喜ばれている直売所グループ、学校給食に地元の農産物を供給している団体や個人、手作り加工食品づくりに励むグループ、安全な食品を求める消費者グループ、更には、地域の人々に食の安全と健康の問題を長い間アピールしてきている専門家の人々など、約70の団体・グループへ呼びかけをした中から50人をこえる人々が参加した。

集いでは、参加した団体・グループなどが互いに連携し、その思いや取り組みを地域の中に広げ、農業の将来や人びとの健康に明るい見通しを立てて行くような状況になっていないことが真剣に話し合われた。そしてこの集いを機に、同じ思いを持ち実践している団体やグループがネットワークをつくり、食と農をめぐる「危機」的社会状況の中で国民の「安心」を生み出す仕事をしていこうと申し合

わせがなされた。

「食と農をおこす佐久地方ネットワーク」が結成され、事務局は佐久地区食健連が担当した。運動の目標は、

- 1) 個々の団体・グループの活動経験をもとに相互の情報交流を行なう。
- 2) 生産者と消費者の顔の見える関係を大切にし、地域内での産消連携をすすめる。
- 3) 健康を守る安全食品の生産を広げる。
- 4) 有機農業の技術交流をはかる。
- 5) 地域の伝統食を掘り起こし、ふるさと食を大切にし、広げる。
- 6) 豊かな食と農についての関心を地域の中に広げ、高める。
- 7) 日本における食と農と健康に明るい見通しを立てるための努力を、それぞれの分野で行なうと同時に大きなうねりを佐久地方からつくり出す。

1997年4月、この目標にそい、初めての「食と農のつどい」が開かれた。参加者は「佐久地方にこんないろいろな団体やグループがあるとは知らなかった。元気が出てきた」「食と農を守る仕事は地域からだ」など、ネットワークへの期待の声が上がった。1997年には「非営利・協同」佐久地区懇親会の結成にも参加した。今年（1998年）は12月9日に第5回の「食と農のつどい」が開かれる。日常活動の報告は集会当日に。

おいでなれし

お知らせ

「食と農のつどい」

～食と農をおこす佐久地方ネットワーク交流会～

参加自由

とき：1997年4月19日（土）pm 1:00～4:30

ところ：佐久市勤労者福祉センター

大会議室

（申込係 0267-62-0267）

日程

記念講演：「食と農をおこす」

（PM:1～7）（財）日本農村工学研究所 浅沼信治

活動報告：有機農業グループ……南牧有機農産物栽培グループ

（PM:2～3）原産グループ……佐久県特別栽培地研究会

馬場グループ……小国市滝原マザーズ

油葉舎グループ……コープながの佐久産直活動委員会

交流会 ～ふらりと食をもちよって～

（PM:3～4:30）白田町有機農業研究協議会

JA佐久市女性部

浅科村おかあさんの会

JA佐久しらかば女性部豆科支部

北郷牧村の研究会

会費：一人 500円

※先着 会場ロビーで販売（持ち込み希望者は事務局へ）

主催：食と農をおこす佐久地方ネットワーク

お問い合わせ 事務局長・藤田亮夫（0267-22-7874）

事務総 浅沼信治（0267-62-2485）

